International Culture Appreciation& Interchange Society, Inc.

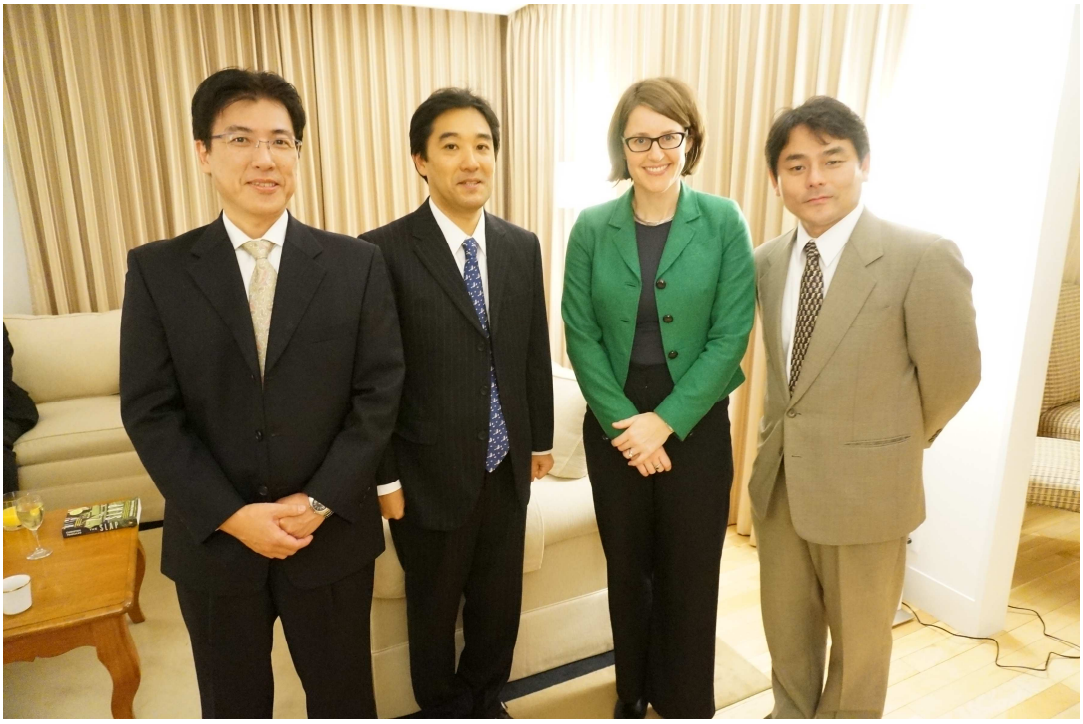
一般社団法人
海外と文化を交流する会

（一社）海外と文化を交流する会会報
2014 年 12 月発行　第 57 号

”知と心”の繋がりに文化の原点を求めて

●日本を理解し日本で学ぶ留学生への支援　●各国大使館との協力などによる文化講演会の主催

豪州との交流＆チャリティーコンサート



２０１４年１１月２６日
オーストラリア大使館　ダラ・ウィリアムズ公使主催のディナーレセプションにて
(左より) 理事 霧生敦史、常務理事 松岡恒太郎、ダラ・ウィリアムズ公使、理事 羽鳥修造

オーストラリア大使館　ダラ・ウィリアムズ公使主催
ディナーレセプションに招待されました

松岡 恒太郎　(一社)海外と文化を交流する会　常務理事

我々理事３名（霧生、羽鳥、松岡）は、さる 11 月 26 日オーストラリア大使館　ダラ・ウィリアムズ政務担当公使主催の豪日交流基金の年度末パーティーへの招待を受け参加しました。当日、外は冬の雨空であったが、大使館内の公使のお住まいというアットホームな雰囲気の中、ウィリアムズ公使、シダル参事官をはじめ、広報文化部の徳文化担当官をはじめとする皆様と話しができたのは貴重な経験となりました。　他の日本の招待客とも名刺交換ができたことは、今後の当会の活動の方向性を考えるためにも大切な場となりました。

個人的には、ウィリアムズ公使の人柄に非常に親しみを覚えました。公使のご夫君は、奥様の公使任命に合わせ、オーストラリアでの仕事を辞め、日本の地で、お子さん３名を相手に専任主夫業を楽しんでおられるそうです。　こういったプライベートな話題をお聞きすることができたのも、こぢんまりとした雰囲気ならではのことでありました。

公使から 2016 年のアクションについての協力を依頼されました。コメントを頂戴するまで気がつかなかった不覚者ではありましたが、2016 年は、日豪の基本条約締結 40 周年の記念となる年を迎えるわけです。　微力な当会もこのビックイベントに向けて何か協力できないかの検討をスタートしたいと思っています。

現在の当会の規模を考えると、大風呂敷を拡げるよりも、あと１年かけてじっくり案を練るのが得策ではなかろうか、大きく目立つイベントでなくてもよい、両国間の人々の心に残るイベントが大切ではなかろうかと思います。

今回のパーティーは、忙しく、せわしない日々を送る我々理事にとっても、とびっきりのスパイスを与えてくれる貴重な機会であったと感じています。

このような機会を与えてくださったオーストラリア大使館の関係者の皆様に感謝の気持ちを捧げたいと思っております。

大澤一彰 チャリティーコンサートを行ないました

Charity Concert に託す思い

日本とオーストラリアとの友好の架け橋を築くことの大切さを、今から 40 年前に当会の創立者である、松岡朝女史は強く望んでいました。その思いを継承するために、今年もオーストラリアの若手美術家を奨励する「朝賞」を贈与すると同時に、放射能の恐怖のもとに暮らす、福島の子どもを支援するプロジェクトにも協力するために、Charity Concert を開きました。

オーストラリア若手美術家支援のために
福島の子ども支援のために

■ 大澤一彰さんからのメッセージ

H25 年に続き、H26 年 10 月に霊南坂教会でのチャリティーコンサートに出演致しました、テノールの大澤一彰です。今回も『海外と文化を交流する会』松岡女史のお志に深く賛同し、敬愛する東京ハルモニア室内オーケストラの四重奏、そしてハープ奏者の瀬川さんと一緒に、オペラアリアや日本の歌、カンツォーネ等を精一杯歌わせて頂きました。

私はかつてローマに留学しておりましたが、海外ではいわゆるハイソサエティーによる芸術支援の意識は大変高く、日本でもこのような会が内閣府の下に活発に活動されている事は、大変素晴らしいと思っております。前回のコンサート収益金は、日本留学中のオーストラリアの若手美術家 3 名へ「松岡朝賞」として授与されたとの事。今回もチャリティーの主旨に賛同する皆様で満員御礼の中、微力ながらそのお手伝いができました事を大変嬉しく思っております。

皆様に大変お誉め頂きましたコンサートですが、その成功の要因として主に３つがあげられると思います。

1 つ目は、霊南坂教会の音響の素晴らしさ。

私は 2008 年に日本の三大オペラコンクールの一つ、「日伊声楽コンコルソ」での優勝後、東京文化会館やサントリーホールを始め、びわ湖ホールや愛知芸術劇場等、全国様々なホールでの演奏機会を頂いておりますが、霊南坂教会の響きの素晴らしさは格別です。いつも私のコンサートに来て下さるお客様は、二階に座られていたそうですが、ドーム型の天井を声が回って響き、大変美しかったとおっしゃって頂きました。

2 つ目は、お客様の雰囲気。チャリティーのお志をお持ちの、優しい皆様が、一生懸命聴いて下さっている様子に感激しながら歌っておりました。

そして、最も需要な要因は、『海外と文化を交流する会』皆様のご活躍です。特に、私は本番前はとても緊張するのですが、楽屋での細やかなお心遣いを頂きました松田洋子さんを始め、スタッフの皆様のお陰で、大変気持ちよくリハーサルを終え、演奏に集中することができました。

終演後は、ギッシュ会長にも労って頂き、大変嬉しかったです。

このご縁が末永く続きます様、どうぞよろしくお願い致します。

大澤 一彰　プロフィール

東京藝術大学卒業、ローマで研鑽を積む。
第 44 回日伊声楽コンコルソ第 1 位、併せてＹＫＫ音楽賞、讀賣新聞社賞、外務大臣賞、文部科学大臣奨励賞、日伊音楽協会賞、日伊協会賞、イタリア文化会館賞、藤原義江賞、奥田良三賞を受賞。第 1 回ルーマニア国際音楽コンクール声楽部門第 1 位、及び全部門より最優秀賞。第 17 回三菱 UFJ 信託音楽賞受賞『ファルスタッフ』フェントンでは、新聞紙上にて「耳を奪う美声」と絶賛される。
180 ㎝を越える恵まれた体躯と日本人離れした高音で、オペラでは常にプリモテノールを務めており、2012 年東京二期会『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥのドラマティックな歌唱は高い評価を受け、NHK で全国放映された。2013 年「第 56 回 NHK ニューイヤーオペラコンサート」出演。
2014、15 年、両国国技館『五千人の第九』ソリスト。 CD『シチリアーナ』発売中。二期会会員。オフィシャルページ http://www.k-osawa.com/

■ 寄せられた感想

徳 仁美　オーストラリア大使館　広報文化部

10 月 10 日、海外と文化を交流する会主催のチャリティーコンサート「テノール　大澤一彰がうたう世界の名曲」に伺わせて頂きました。海外と文化を交流する会には、1977 年に現代日本画巨匠の作品をオーストラリアにご寄贈頂いたときから、日豪の文化交流に多大なご貢献を頂いております。今回のコンサートも、オーストラリア若手美術家を奨励する「松岡朝賞」贈与を目的として企画して下さったと伺い、改めて深い感謝の念がわいてまいりました。

コンサートには 2011 年にも伺わせて頂きましたが、今回は、弦楽四重奏、オルガン、ハープの音色に加えて大澤さんの素晴らしい歌声が満員の教会に鳴り響き、前回にも増して、心も体も音楽と会場の皆様のご厚志に包まれたような気が致しました。次々と演奏される曲を聴きながら、「荒城の月」、「星は光りぬ」（トスカより）、「オ・ソレ・ミオ」など、古今東西に共通する喜びや悲しみが胸に染み入りました。

このような素晴らしい公演を通じて届けられた皆様の温かいご支援を、ありがたく大切に日豪交流に生かしていきたいと思っております。

この度は本当にありがとうございました。

西山 昌子　東京ハルモニア室内オーケストラ・バイオリニスト
(一社)海外と文化を交流する会　会員

コンサートが終わって、お客様から「とても良かった」というお言葉をたくさん頂きました。これは心から、そう言ってくださっているということが、演奏中 stage の上から客席を見ると、皆様がとても温かい眼差しで、心から楽しんで満足してくださっている様子がよくわかりました。このことは、演奏していた者達にとって最高のプレゼントであり、いつもこのようなコンサートを開けたらと願っております。会の皆様方のご奉仕の精神と、お力添えに感謝しながら…

霧生 敦史　(一社)海外と文化を交流する会　理事

数々の国際賞をとった歌手で、今回はハープも参加するから聞きごたえあるはずと紹介してくれた友人の言葉通りすばらしく、心から楽しめました。妻と大学生の娘と私の３人で参加いたしました。子供もこの年頃になると家族全員で楽しむイベントは少ないため、私が家族を無理やり引っ張り出しました。妻には霊南坂教会という会場設定も大きく作用したようです。

声楽家のコンサートは全員初めてで、特に娘が楽しめるかと少し心配していましたが、完全に杞憂でした。全員が感動。目の覚めるような美声はもちろん、その声量に圧倒され、背骨の芯から震えを覚えました。構成もよく練られていていました。パイプオルガンから始まり弦楽四重奏、ハープと出てきて、そして「主役」の登場。聞き覚えのある曲を取り入れてくれ、手元の日本語訳があったおかげで楽しさも倍増でした。小さい会場ゆえの演者と観客の距離の近さもいい。娘の反応をみてみると、にこにこでリズムをとって楽しんでいるようでした。

途中日本の歌が２曲入っていたのも意外でしたが納得しました。観客に親しみを持ってもらう効果もあったのでしょう。しかし私には、西洋の楽曲とは明らかに異なる調べを感じてもらえるようにとの配慮にも思えました。同じ声、同じ楽器なのになぜ日本的と感じるのだろう、どこに差があるのだろうと（左脳で）考えながら（右脳で）楽しみました。それにしても、日本の歌の一番いいところは歌詞の意味が分かることですね（笑）。

終わってみると私の体は感動で固まったまま。大学の授業を終えて駆け付けた娘も相当疲れているはずなのに最後まで目を輝かせていました（そういえば彼女は中学生の時合唱部に入っていたんだった。興味がないことはないんだ）。後で聞いたところ、大学で第３外国語として学んでいるイタリア語の単語がいくつ聞き分けられるかにもひそかに挑戦していたようです。おお、ずいぶんと勉強熱心じゃないか。父ちゃんはちょっと感動したぞ。

来年も、もし同様のコンサートがあれば参加したいかと家族に聞いてみると「もちろん！」と力強い返事が返ってきました。主催者の皆さん、来年もよろしくお願いします。

林 幸子　(一社)海外と文化を交流する会　会友

今回、初めて海外と文化を交流する会のコンサートへ足を運ぶ事となりました。お手伝いという事で、コンサートの始まる前からの準備や受付などをしたのですが、このコンサートを楽しみにして多くの方がいらっしゃり、始まる前から大盛況であることはすぐにわかりました。

お手伝いの特権！！で大澤一彰さんとお話する機会があったのですが、とても穏やかで、温かい方との第一印象でした。コンサートが始まり、礼拝堂一杯に響きわたる大澤さんの美しい歌声は一人ひとりの胸にまで振動として熱く届くものでした。私は後方から、ドアの外からと聴いていたのですが、大澤さんの熱いまなざしと気持ちのこもった歌声は会場のどこにいても魅了される素晴らしいもので、礼拝堂という大ホールではない空間が、さらに身近で贅沢な時を創りあげてくれました。

パイプオルガンの演奏に始まり、ハープなどの美しい演奏と大澤一彰さんのテノールの歌声という贅沢なコンサートのお手伝いが出来ました事に本当に感謝です。海外と文化を交流する会の益々のご発展をお祈りしております。

宮川 昌子　(一社)海外と文化を交流する会　会員

このコンサートを企画して、多くの人に豊かな時間を与えてくださった皆様に感謝します。このコンサートは初めてと仰る〇〇さんと一緒に拍手をしまくりました。また別の知り合いは、「涙が出ました」と言って大澤さんと握手されたそうです。帰りの電車は３人で盛り上がりました。プログラムに歌詞解説が添えられてありましたが、とても親しみやすく、歌の情景がよく分かり他のコンサートとは違ってよかったです。大澤さんは、昨年より一層声になめらかさが増し、笑顔、身のこなし、talk…と全てにおばさんファンを魅了。来年の１０月１６日のコンサートが楽しみです。出演者はもちろんのこと、スタッフの皆さんに、その気になって働いていただくのは大変なことですね。

予告

ご好評につき、次回、大澤一彰チャリティーコンサートが
2015 年 10 月 16 日(金)に決まりました

会費納入のお願い

2014 年度の年会費納入をお願いいたします。子ども達に、より良い日本を残すための当会の活動内容は現在まで高く評価されて参りました。これも皆さまのご理解があればこそでございます。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

日本にあるものはオーストラリアには無く、オーストラリアにあるものは日本には無いと言われており、友好を深め、相互協力を推進することが重要な意味を持つ関係にあります。日豪両国の芸術専攻生の教育交流の発展や、オーストラリアやニュージーランドに寄贈した日本画の里帰り展の実現を通して。相互協力関係の深化を図りたいと思いますので、是非ご支援ください。

郵便振替　　00130-2-366249　一般社団法人海外と文化を交流する会
銀行振込　　三菱東京 UFJ 銀行渋谷支店（普）0026193　海外と文化を交流する会

会費 10,000 円（正会員）　5,000 円（特別賛助会員）　3,000 円（学生会員）

海外と文化を交流する会事務局
〒151-0053　東京都渋谷区代々木1-27-6　パインヒル内
TEL&FAX　03-3370-7654　　e-mail:　jimukyoku@kaigai-bunka.org
http://www.kaigai-bunka.org